



タイムトラベル⑦ 安土桃山時代を眺めてみよう

(16世紀ごろのある場面)

室町時代 p.90~91

江戸時代 p.134~135



? 次の場面を探してみよう! 次の場面は、**ア**~**イ**のどれに当たるか、()に記号を入れてみよう。

- ① 城のシンボルとなる天守が、建てられています。 ()
- ② 城の周囲に、家来の屋敷が広がっています。 ()
- ③ 十字架を持った外国の人が人々に語りかけています。 ()
- ④ 僧侶から、刀などの武器を取り上げています。 ()
- ⑤ 縄と物差しで、田の広さを調べています。 ()
- ⑥ 農民が、新しい升を使うように指示されています。 ()

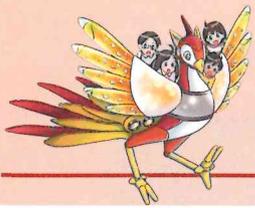
ヒント ①→p.121 ②→p.97 ③→p.113 ④→p.118 ⑤→p.118 ⑥→p.118

A

B

C





ここからは近世です。戦乱の世から安定した社会へと変化していきます。ここは安土桃山時代といわれる時代です。まちづくりの真っ最中で、周辺の人々にも新たな政策の影響が及んでいるようです。



見方・考え方

むろまち 室町時代から あづちもやま 安土桃山時代に 移り変わって、どのような点が変化しているのでしょうか。また、なぜそのようなに変化したのでしょうか。例えば以下の点などに注目し、周りの人と話し合ってみましょう。

- ・場面アのように田の広さを調べる人々
- ・場面カのように武器を回収する人々



対話

げんざい 現在では海外から多くの人々が観光に訪れているけれど、この時代に海外から来た人は何をしているのかな。



D

E

F





2節の問い 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。



↑1 長篠の戦い 織田・徳川連合軍は、騎馬を中心とし、戦国最強といわれた武田軍と戦いました。【長篠合戦図屏風】愛知県 徳川美術館蔵

織田・徳川連合軍と武田軍の戦い方にはどのような違いがあるかな。



1 信長・秀吉による全国統一



↑2 織田信長(1534~82) この肖像画は、信長の死後に描かれ、秀吉の指示で、地味な装いに直されたともいわれています。【狩野永徳作 京都府 大徳寺蔵】**小地公**

→3 信長が使用した「天下布武」の印章 美濃攻略後に使われたもので、「天下」は京都周辺を指していると近年指摘されています。この印章は足利将軍を中心として京都周辺の秩序を回復する意思を示していると考えられています。



【千葉県 国立歴史民俗博物館蔵】



学習課題

戦国大名は、どのようにして全国統一を進めたのだろうか。

織田信長の登場

尾張(愛知県)の小さな戦国大名であった織田信長は、東海地方を支配する今川義元を桶狭間(愛知県)

で破って名を上げました(桶狭間の戦い)。次いで美濃(岐阜県)も攻略した信長は、1568年にほかの戦国大名よりも先に京都を押さえ、足利義昭を15代将軍としました。しかしその後、義昭と対立した信長は、1573年には義昭を京都から追放して室町幕府を滅ぼし、政治の実権を握ることに成功しました。

信長は、敵対する戦国大名を破り、全国統一を推し進めました。1575年、信長は甲斐(愛知県)で甲斐(山梨県)・信濃(長野県)などを支配していた武田勝頼と戦ったとき、武田軍の突進を防ぐ柵を設け、大量の鉄砲を効果的に使って勝利しました(長篠の戦い)。これ以後、鉄砲が戦いの主要な武器となりました。

信長の政策

信長は、比叡山延暦寺(滋賀県)を焼き討ちし、各地の一向一揆を約10年間に及ぶ激しい戦いの末に屈服させ、その根拠地である石山本願寺(大阪府)を降伏させました。

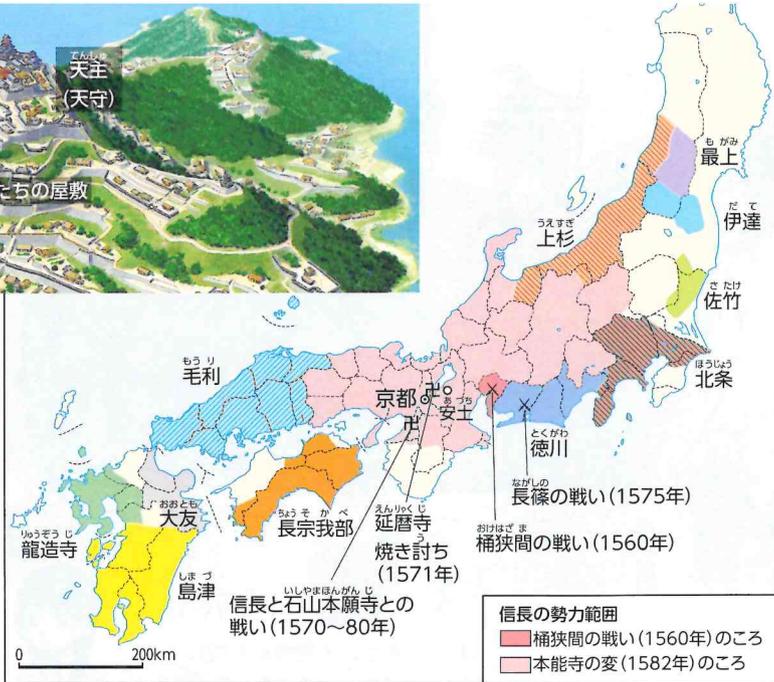


【画：香川元太郎氏】

↑4 **安土城**(想像図) 信長は琵琶湖に囲まれた安土山の上に城を築き、周りには家臣の屋敷や寺社を置きました。城下町に水路が引かれ、船などによる交易が盛んになりました。本能寺の変の混乱で、安土城は焼失しました。

楽市令(1577年 安土)

- 一、この安土の町は楽市としたので、いろいろな座は廃止し、さまざまな税や労役は免除する。
- 一、京都を行き来する商人は、安土を通過していない街道(後の中山道)の通行を禁止する。必ず安土に寄って泊まるようにせよ。
- 一、他の国や領地から住みついた者でも、以前から住んでいた者と同じ扱いとする。【一部要約・抜粋】



↑5 信長とそのほかの戦国大名の勢力範囲(1582年ごろ)

資料活用 p.97 6の勢力範囲と比べてみよう。

みずからの支配に抵抗する仏教勢力に厳しい態度で臨む一方、仏教勢力への対抗と貿易による利益のため、キリスト教を保護しました。

また、琵琶湖(滋賀県)のほとりに壮大な安土城を築いて全国統一の拠点とし、次々と政策を打ち出しました。まず、関所を廃止して自由な交通を可能にし、道路を広げて商品の流通を盛んにしました。次いで、すでに美濃でも行っていた楽市令を出して座をなくし、市場での税を免除して商工業を活発にしました(楽市・楽座)。その一方で、自治都市であった京都や堺(大阪府)の自治権を奪って、商人や職人を支配下に置きました。しかし、1582年、家臣の明智光秀に本能寺(京都府)で攻められ、信長は自害しました(本能寺の変)。

豊臣秀吉の全国統一 信長が果たせなかった全国統一を実現したのが、**豊臣秀吉**です。秀吉は尾張の百姓の子で、信長に仕えて出世しました。光秀を倒して信長の後継者となり、大阪城を築いて全国統一の拠点としました。秀吉は朝廷から関白に任じられ、朝廷の権威を利用した停戦命令を全国に発した後、これに従わない大名の争いに介入しました。四国・九州の大名を降伏させ、1590年には関東に勢力を保っていた北条氏を滅ぼしました。東北の大名も秀吉に従い、全国統一を果たしました。これにより、応仁の乱から100年以上続いた戦国時代は、ようやく終わることになりました。



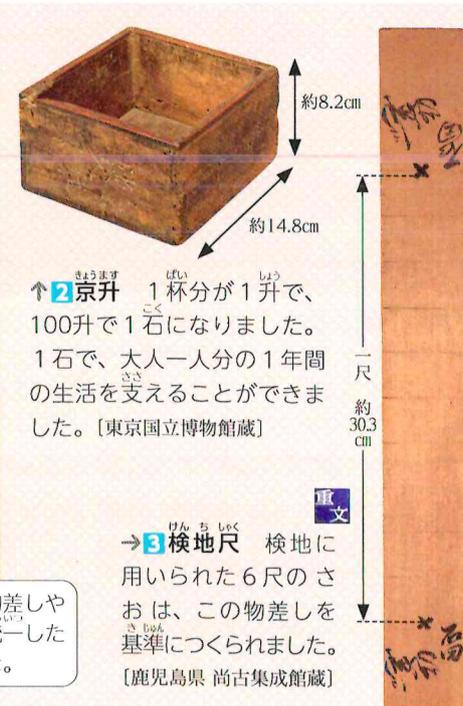
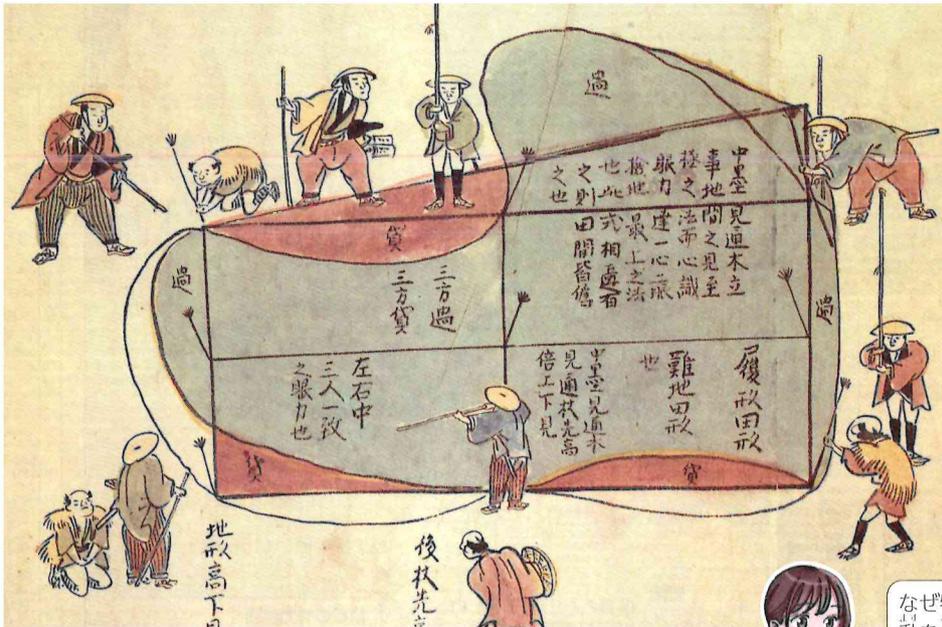
↑6 **豊臣秀吉(1537~98)** 背後に水墨画が描かれ、唐風の冠をかぶる秀吉の姿は、中国への憧れを表しています。[愛媛県 宇和島伊達文化保存会蔵] 小地公

解説 太閤
関白を退いた人を太閤とよびます。秀吉は全国統一を果たした後、太閤の立場で実権を握りました。

信長が行った経済に関する政策を、本文から書き出そう。

信長の政策は、日本の社会をどのように変えたのか、政治面・経済面でそれぞれ説明しよう。

徳文
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11 安
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土桃山
18 江戸
19
20 明治
21 大正
昭和
平成
令和



↑1 検地の様子 絵は江戸時代のもですが、太閤検地も同じように行われました。【羽陽秋北水土録図絵/検地図絵】秋田県 玄福寺蔵】小地公

なぜ物差しや升を統一したのかな。

2 秀吉が導いた近世社会

2節の問い 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。

解説 百姓
古代で「百姓」は広く人々を指していましたが、やがて農業・漁業・林業などで自給自足の生活をする農民・漁民などを指すようになりました(「百姓」)。百姓の多くは農業を営む農民でした。

刀狩令(1588年)

一、諸国の百姓が、刀・脇差・弓・やり・鉄砲・その他の武具などをもつことは、固く禁止する。その理由は、武具を蓄えた者が一揆を起こして処罰されると、土地を耕す者がいなくなって領主が得る年貢が減ってしまうからである。したがって、大名やその家来は、これらの武具をすべて集めるようにせよ。

一、取り上げた刀や脇差は、大仏建立のためのくぎやかすがいとして用いようと思う。そうすれば、この世はいうまでもなく、来世までも百姓のためになるだろう。

一、百姓は農具だけをもって、耕作だけを一生懸命やっていたら、子孫代々まで長く続くだろう。

【『小早川家文書』より、一部要約・抜粋】

ひでよし 秀吉は、国内と海外に対してどのような政策を行ったのだろうか。

学習課題

秀吉の国内政策 豊臣秀吉は、全国に200万石もの領地をもち、京都・堺(大阪府)・長崎などの重要都市や石見銀山(島根県)などの鉱山を直接支配し、統一した金貨を発行しました。また、刀狩を行い、百姓が刀ややりなどの武器をもつことを禁止しました。

これによって、百姓は武器を用いて戦うことができなくなり、武装してみずからの力で紛争を解決することが否定されました。

さらに、秀吉は年貢を確実に集めるために、それまで地域によって異なっていた升や物差しを統一し、石という単位を用いて田畑の広さや収穫高を調べて、実際に耕作している百姓の名前とともに検地帳に登録しました(太閤検地)。武士は自分の領地の石高に対して、戦いに必要な人や馬を確保することになり、農民は石高に応じた年貢を納めることが義務づけられました。これによって、公家や寺社はそれまで荘園領主として持っていた土地の権利を失い、荘園の制度は完全に崩れました。秀吉は、刀狩と検地を徹底して行うことによって、武士と百姓の身分を区別する兵農分離を進め、その後の身分制に基づく社会の土台をつくりました。

キリスト教の禁止と海外貿易 キリスト教を保護した信長に続き、秀吉も初めはキリスト教を保護していました。

→4 東南アジア貿易の輸入品
中継貿易(→p.112)の拠点で
あった東南アジアには、さまざま
な産物が集まっていた。
〔千葉県 国立歴史民俗博物館蔵〕



↑5 秀吉がつくらせた大判の金貨
〔『天正菱大判』日本銀行貨幣博物館蔵〕

パテレン(宣教師)追放令(1587年)

- 一、日本は神国であるため、キリシタンの国から悪い教え(キリスト教)を伝え広められるのは非常によくはない。
- 一、宣教師は今後、日本にいることはできない。今日から20日以内に用意を整えて帰国しなさい。
- 一、ポルトガルの貿易船は、商売のために来ているので特別に許可する。今後もいろいろと売買するようにしなさい。

〔『松浦文書』より、一部要約・抜粋〕

しかし、長崎がキリシタン大名によって寄進され教会領になったことなどから、その力をおそれるようになり、1587年に宣教師の海外追放を命じてキリスト教を禁止しました。一方で秀吉は、東南アジアやそこを拠点とするヨーロッパとの貿易を豪商らに認めていたため、キリスト教の禁止を徹底することができませんでした。当時の海外貿易は、キリスト教の布教と一体化していたからです。

文禄・慶長の役 全国統一を果たした秀吉は、さらに領土を広げるため、明に代わって東アジアを支配しようと考えました。秀吉は、倭寇を取り締まって海上の支配を強めた後、

フィリピンや台湾などには服属を、朝鮮には明を征服するための協力を求めました。朝鮮がこれを拒否すると、1592(文禄元)年に15万人の大軍で攻め入り、首都の漢城(現在のソウル)など各地を占領しました(文禄の役)。しかし、朝鮮では僧侶や、義兵とよばれる民衆の抵抗運動、李舜臣の率いる水軍の抵抗が強く、明の援軍もあつて行き詰まり、秀吉の軍は休戦して兵の一部を引き揚げました。1597(慶長2)年に再び出兵しましたが(慶長の役)、苦戦が続き、翌98年の秀吉の死によって全軍を引き揚げました。2度の出兵で、日本でも武士や民衆が兵力や戦費の負担に苦しみ、豊臣氏の支配が弱まる原因となりました。

歴史プラス+ 愛用品からみる秀吉の計画

文禄・慶長の役の背景に、明の征服を目指す秀吉の構想がありました。秀吉が使用していた扇の表面には明・朝鮮・日本と主要な都市が描かれ、裏面には「さけもってこい」などの日常会話が、中国語と日本語で書かれています。この扇は、文禄の役に際して、秀吉が明の使節との会見に備えてつくらせたものとも考えられています。

↑6 秀吉が愛用した扇(表面)〔『三国地図扇面』大阪城天守閣蔵〕

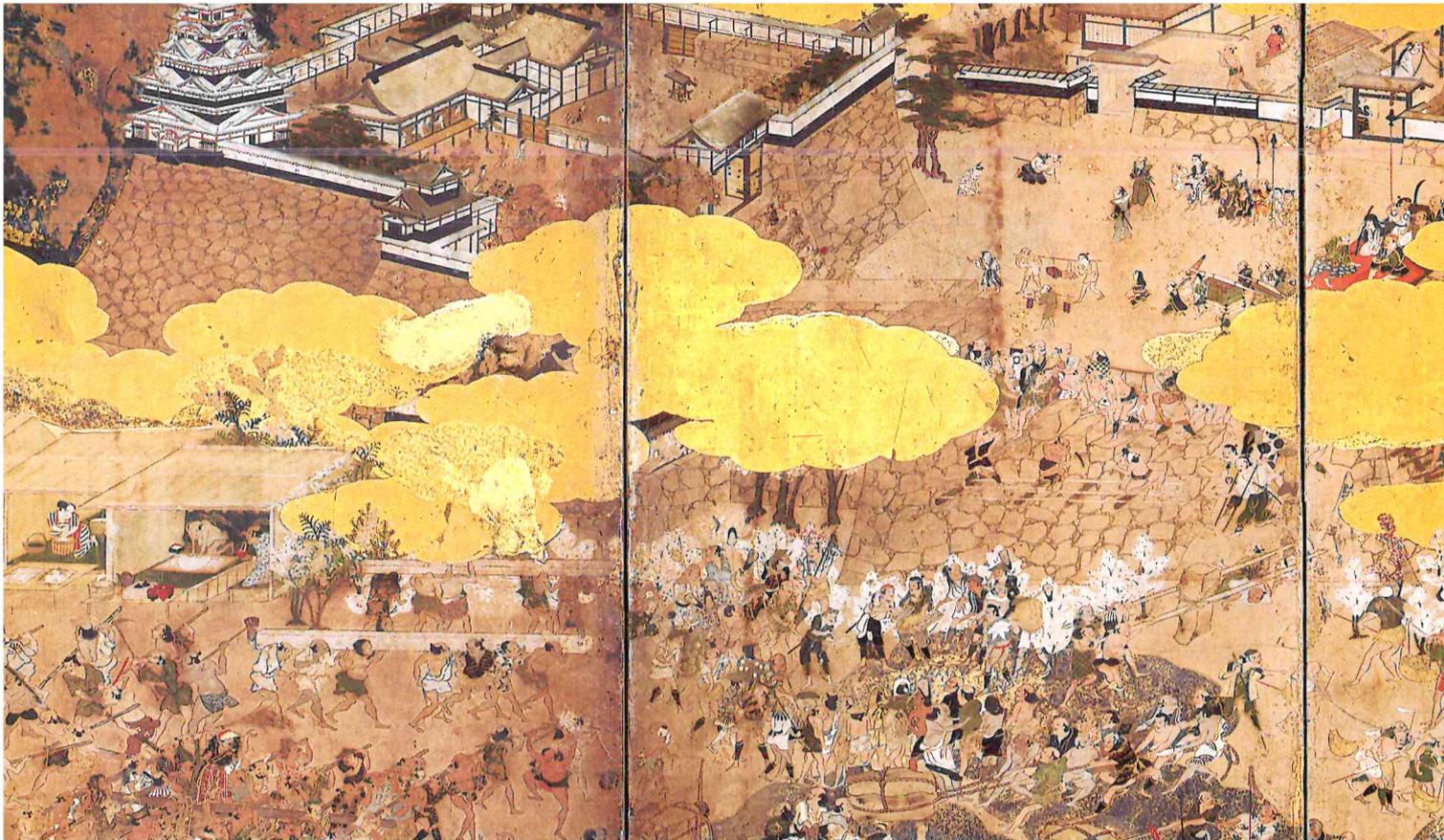


↑7 文禄・慶長の役の進路 秀吉軍の侵攻は、朝鮮全土に及びました。戦いで各地の村が焼かれ、朝鮮の人口は激減しました。

秀吉が行った政策を、本文から確認しよう 書き出そう。

検地と刀狩によって社会はどのように変化したのかを説明しよう。

1	縄文
2	弥生
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土桃山
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和



↑1 築城の様子 豪華な金雲の切れ間で、さまざまな服装をした人たちが、棒や籠を使って大小の石を運び、石垣を積み上げたり、その横でそろばんをはじいたりして、城づくりに励んでいます。図中の左側にはうどん屋などが並んでいます。【築城図屏風】愛知県名古屋市博物館蔵

豪華絢爛

富があふれた戦乱の世

どうして戦国大名は大きな城をつくったのかな。



↑2 大広間 大広間の成立は、数多くの人々を一堂に集める対面の儀礼を可能としました。室内に主君が座る上段と、家臣たちがひれ伏す下段を設けることによって、主従の上下関係がぎわ立たせられました。【京都府 二条城二の丸御殿元離宮二条城事務所提供】



↑3 狩野永徳作「唐獅子図屏風」(右隻) 戦国大名たちの城郭にある大広間の壁には、金箔や金泥を下地にして、大樹や巨大な獅子・龍虎・鷹などの獣や鳥が好んで描かれました。

【皇居三の丸尚蔵館蔵 縦224.2cm×横453.3cm】



世界遺産 国宝

↑ **4** 姫路城(兵庫県 姫路市) 平山城の一つで、簡単に攻められないように、城全体が複雑な構造になっています。その美しい白壁から白鷺城ともよばれています。

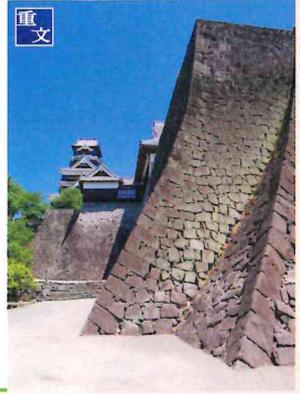
→ **5** 壁にあいた三角形の穴(姫路城) **資料活用** この穴は何に使われたのだろうか。



世界遺産 国宝

未来に向けて **築城の工夫と技術** 情報・技術

安土桃山時代以降、石垣の上に天守を備えた強固な城が武將によって各地で築かれるようになりました。城には、当時の人々の知恵と技術が詰まっています。例えば、石垣は、天守を支えることができ、かつ崩れることのないよう、日本独自に発展した数学によって細かく計算されてつくられました。



重文

→ **6** 高く積み上げられた石垣(熊本県) 石垣の高さは、約17mにも上りますが、石垣の傾斜を変えて設計することで、地震に耐えられる構造になっています。

3 戦国大名と豪商が担った桃山文化

2 筋の問い 全国統一が進むなかで、社会はどのように変化したのだろうか。



安土桃山時代には、どのような特色をもった文化が展開したのだろうか。

戦乱の世の文化

戦国時代末期になると、戦国大名によって金銀の採掘が進められて、それらの産出が増大しました。

また、織田信長や豊臣秀吉らの楽市・楽座の政策によって、国内の商業が活発になりました。さらに、京都・堺(大阪府)・博多(福岡県)などの都市を中心に、中国やヨーロッパとの貿易で潤う豪商が台頭してきました。こうした豪商たちや戦国大名の経済力と、乱世が終わり統一権力が誕生した新しい時代の気風を反映して、壮大で豪華な文化が生まれました。

戦いの拠点であった城は役割とともに急速に変化し、それまで山に築かれた山城から、小高い丘に築かれる平山城や、政治の場ともなる平城へと変わっていきました。そうしたなか、信長や秀吉は、権力の大きさを示すために安土城や大阪城などの雄大な天守を築き、城の内部には大広間をつくらせました。富や権力を背景に書院造がいつそう豪華になり、ふすまや屏風には、狩野永徳や狩野山楽らによって金箔を使った華やかな色彩の絵が描かれました。さらに、ふ

未来に向けて **大規模建築と森林伐採** 環境・エネルギー

天下統一を果たした秀吉は、壮大な城や寺社を数多くつくりました。資材確保のための事業が広く行われ、自然環境に大きな影響を及ぼしました。例えば、大阪城の石垣に使用するため、50万個以上のにのぼる石が切り出されました。また、京都の方丈寺に大仏をつくる際は、大名に命じて屋久島や木曾地方の大木を調達させました。屋久島に残るウィルソン株は、そのときに伐採された跡と伝えられています。

→ **7** ウィルソン株 樹齢2000年ともいわれる、大きな切り株です。 **小地公**



本文

1 弥生

2

3

4

5 古墳

6

7 飛鳥

8 奈良

9

10 平安

11

12

13 鎌倉

14 南北朝

15 室町

16 戦国

17 安土桃山

18 江戸

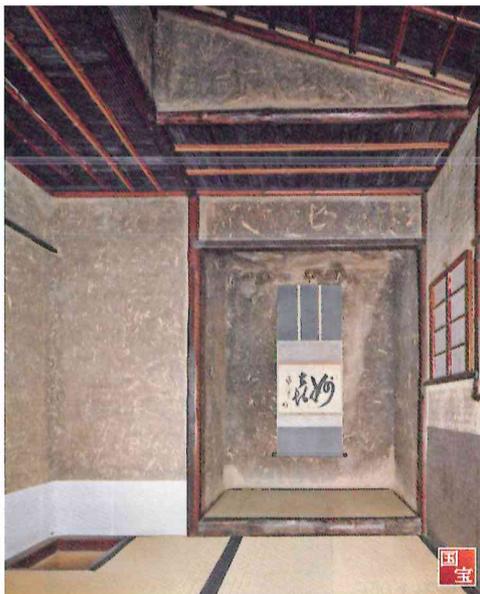
19 明治

20 大正

21 昭和

22 平成

23 令和

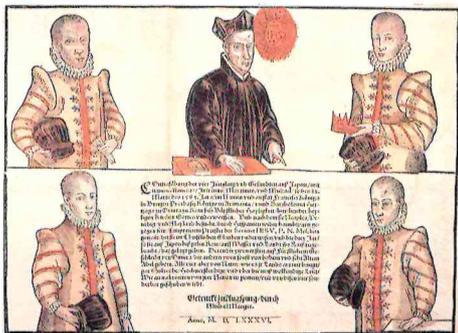


↑8茶室 茶室は、小さなじり口から入り、荒壁と窓のわずかな光に囲まれた畳ほどの空間です。静寂を重んじるわび茶の精神が凝縮されています。[京都府 大山崎町 妙喜庵待庵]



[奈良県 天理大学附属天理図書館蔵]

←10地球儀 ヨーロッパから精確な世界地図や地球儀がもたらされ、信長も秀吉も天皇も手にとりました(→p.111E1)。これらの登場により、インド・中国・日本の三国で構成されたそれまでの世界観から拡大し、地球規模で世界をとらえるようになりました。



↑11天正遣欧少年使節 13~15歳の4人の少年使節は、1582(天正10)年に出発しました。1590年に帰国しましたが、不在中に秀吉がキリスト教を禁止していたため、知識は十分に生かせませんでした。[京都大学附属図書館蔵]

千利休

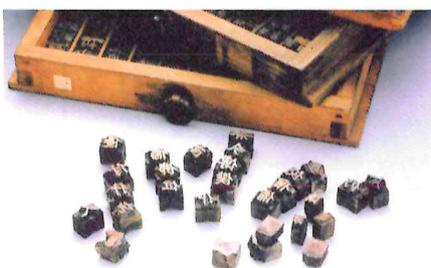
1522~91

天下一の茶の湯の名人

堺の豪商で、茶の湯の作法を定めて、禅宗の精神や独自の方法でわび茶を大成させました。織田信長や豊臣秀吉などの大名にも、茶の湯の作法を指導していました。また、東南アジアとの貿易で輸入された茶つぼなどの目きき(鑑定)をしたことでも知られ、輸入された茶道具で評判の高かったものは、大名の領地にも等しいといわれました。利休は秀吉の政治にも関わりましたが、後に秀吉の怒りを買って、切腹を命じられました。



→9千利休のわび茶のために生み出された茶碗 [樂家 初代長次郎 黒染茶碗 銘 勾当 京都府 樂美術館蔵]



←12活版印刷に使用された活字(写真は江戸時代につくられた漢字の活字) [TOPPANホールディングス株式会社印刷博物館蔵]

→13ローマ字で印刷された本(レプリカ)によりキリスト教布教のための書物のほか、日本の古典や辞書がローマ字で印刷されました。[資料活用] ローマ字で何と書かれているのだろうか。



すまの上などにある欄間には、精巧な彫刻が施されました。

また、豪商たちは、茶の湯を通して大名らとも交流を深めました。堺の千利休は、目まぐるしい戦乱のなかで、質素で静かな雰囲気⁸を大切に作るわび茶を完成させ、茶の湯を茶道へと高めていきました。

この時代の文化を、秀吉が築き、後に桃山城とよばれた伏見城⁵(京都府)にちなんで桃山文化^{もやまぶんか}といえます。

海外から流入した文化の影響 南蛮貿易を通じて、ヨーロッパの天文学・航海術・医学などの学問や技術¹⁰がもたらされ、

南蛮風の服装などが流行したり、カステラや金平糖などが食べられました。こうしたヨーロッパの影響を受けた文化を南蛮文化^{なんばんぶんか}といえます。言葉の面では、パンやカルタといったポルトガル語が日本語として使われたり、刀や屏風といった日本語がポルトガル語になったりした例もありました。

また、活字を組んで印刷する活版印刷の技術は、キリシタン大名¹²



↑14阿国歌舞伎 歌舞伎の始まりは、阿国などが行った女歌舞伎でした。上流階級の人だけでなく、庶民や宣教師など多くの見物人が押しかけました。【歌舞伎図巻】愛知県 徳川美術館蔵

資料活用 図14のなかから下に挙げたA~Dの人物を探してみよう。

A. ひだがあるえりの服を着た人 B. キセルでたばこを吸う人 C. 袖のない上着を着た人 D. 南蛮人

未来に向けて **朝鮮半島から伝わった文化**

わび茶が盛んになると、朝鮮で焼かれた茶碗などの評価が高まり、諸大名は競ってそれを求めました。文禄・慶長の役(→p.119)のとき、朝鮮の陶工が連れてこられたり、みずからの意志で移住したりしたことで、陶磁器づくりが伝わりました。また、捕らえられた朝鮮の儒学者が日本の学者に儒教(→p.137)を教え、日本に広まるきっかけをつくりました。

→15有田焼の茶碗[東京国立博物館蔵] 小地公

→16朝鮮の陶工による陶磁器の主な産地

によって派遣された天正遣欧少年使節や、秀吉の文禄・慶長の役によって日本にもたらされ、ローマ字で表記した印刷物も登場しました。朝鮮からは陶磁器づくりの技術も伝えられ、有田などで優れた磁器がつくられるようになりました。

5 **今を楽しむ 庶民** 一つ戦乱に巻き込まれるか分からない状況のなかで、百姓や町人の間に今を楽しもうとする気風が強まりました。このような気風のなか、小歌や踊りも流行し、出雲(島根県)の阿国によってかぶき踊りが始められ、女性や子どもなども含め、広く人気を集めました。また、中国起源である琉球の三線をもとに三味線がつくれ、その演奏に合わせて語られる浄瑠璃や、人形操りと結びついた人形浄瑠璃が完成しました。武士の間では、将棋・囲碁・すごろくなども広まりました。また、もともと下着だった小袖が一般的な服として広まり、木綿が色鮮やかに染められ美しい文様をもつようになって、現在の和服の原型になりました。



↑17三味線を弾く人とすごろくで遊ぶ人々【彦根屏風】(部分) 滋賀県 彦根城博物館蔵

この時代に豪商、百姓や町人、武士の間で流行したものを、それぞれ書き出そう。

確認しよう

桃山文化の特色を、中世の文化と比較して説明しよう。

説明しよう

縄文
BC
AD
1 弥生
2
3
4
5 古墳
6
7 飛鳥
8 奈良
9
10 平安
11
12
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土桃山
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
平成
令和